

## 【クレア経済アドバイザーの視点】

クレアでは自治体の海外経済活動に対しより効果的な支援を行うため、経済交流課に経済アドバイザー（商社OB）を設置しています。

海外経済活動に必要な基本情報から、輸出入や海外でイベント、商談会を行う際の注意点などの個別具体的なアドバイスまで、専門的見地からの助言を行っています。どうぞご活用ください。

毎月、山崎経済アドバイザーの視点による注目情報をお届けします。



## FTAとEPAについて

交流支援部経済交流課

昨今の TPP 論議を契機に、FTA（自由貿易協定）とか EPA（経済連携協定）という言葉が、テレビや新聞でしばしば登場しているが、この二つの言葉が必ずしも正確に使い分けが出来ていないことに気づかされる。既にそれぞれの意味を十分理解している読者の方々もおられると思うが、改めてこの機会にそれぞれの意味するところを、簡単に説明してみたい。

### 【FTA とは】

**自由貿易協定**は英語では Free Trade Agreement(略して **FTA**)と呼ばれ、特定の国と国、特定の地域（例えば EU）と地域（例えばアセアン）との間で行われるモノ（物品）の輸出入に於いて存在する関税の撤廃や削減、あるいは国境を越えて行われる I.T、流通、金融、輸送、観光、旅行等の広範なサービスの提供（サービス貿易と呼ばれる）の際に存在する規制をなくすことを目的とした協定のことである。

### 【EPA とは】

一方、**経済連携協定**は英語で Economic Partnership Agreement(略して **EPA**)と呼ばれ、FTA における自由化に加え、人の移動、外資に魅力ある投資環境の整備、知的財産権の保護、公正なる競争のルールづくりなど自由貿易協定よりさらに包括的な協定のことである。

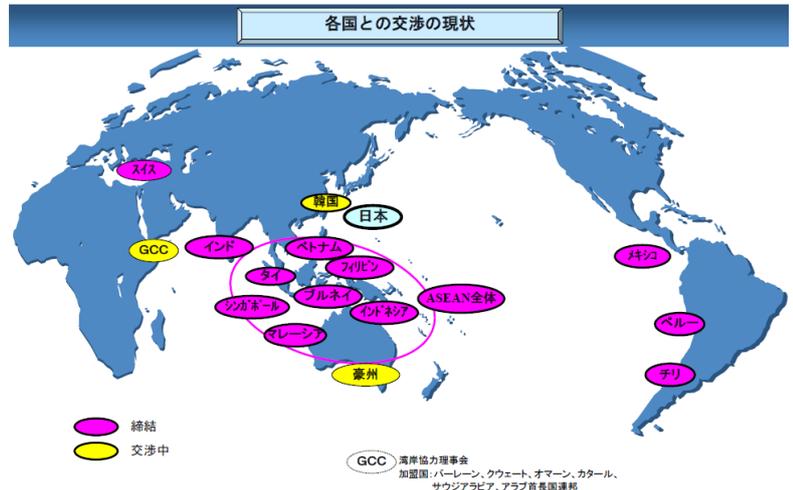


EPA と FTA について(経済産業省HPより)

### 【日本の現状】

日本では実際に提携されている協定は EPA であるにもかかわらず、FTA と表記あるいは表現されていることが随所に見られるので、あまり神経質にならずに、それぞれの意味を理解した上で、例え FTA と表現されてもほとんどのケースは EPA の事を言っていると解釈すれば、ストレスも生じないかも知れない。ちなみに TPP は包括的経済連携協定 (Trans Pacific Partnership) である為、EPA と定義づけられる。

現在日本は、シンガポール、メキシコ、マレーシア、チリ、タイ、インドネシア、ブルネイ、フィリピン、ベトナム、インド、スイス及びアセアン全体と EPA 協定が既に発効している。またペルーとは協定に署名済みで、さらに現在、豪州、湾岸諸国(中東)との交渉が行われている。一方、日本の貿易総額に於ける上位を占める中国、米国、韓国、EU などの国々とは、EPA が一切締結されていないのが現状である。



各国との交渉の現状 (農林水産省HPより)

### 【今後の展望】

今後日本は少子化によるモノの需要縮小と、円高傾向等による製造業の海外生産シフトの加速は避けられない状況であり、従来のような単純なモノの貿易の拡大には視界不良が予想されるが、一方では日本が世界の中で強みを持つ省エネ技術、鉄道技術などでの官民一体となった海外展開、あるいは日本人特有の極めの細かさを武器としたポップカルチャーやコンビニなどの海外展開、高価ではあるが安全・安心で美味しい日本食材の展開、あるいはおもてなしの心を強みとした外国人の観光誘致など、様々な分野での新たなビジネスチャンス創造出来る可能性が数多く存在することは、疑いのないところである。より多くの国々や人々を対象として、これらのビジネスを具現化して行くためのインフラ整備として、EPA の拡大が望まれるところである。

### 【関連資料】

- 1 EPA/FTA とは (経済産業省)  
[http://www.meti.go.jp/policy/trade\\_policy/epa/about\\_epa.html](http://www.meti.go.jp/policy/trade_policy/epa/about_epa.html)
- 2 EPA/FTA 交渉の現状 (平成24年4月農林水産省大臣官房国際部経済連携チーム)  
[http://www.maff.go.jp/j/kokusai/renkei/fta\\_kanren/pdf/1204genjyo.pdf](http://www.maff.go.jp/j/kokusai/renkei/fta_kanren/pdf/1204genjyo.pdf)

(経済アドバイザー 山崎 和彦)